

セルリーの萎黄病(新発生)

令和5年5月～6月、胆振地方において、本圃で葉が黄化～白化し、のちに株全体が矮化する症状が、苗床では株の萎凋、枯死の症状が発生した。症状の激しい株では罹病株の茎、葉柄および根部の維管束に褐変を生じた。罹病部からは *Fusarium* 属菌が高率に分離された。分離菌を用いたセルリー一苗への接種試験の結果、原病徴が再現され接種菌が再分離された。病原菌の形態観察の結果、PDA 培地上の菌叢は白色～淡紫色で綿毛状の気中菌糸を形成し、裏面は淡紫色であった。CLA 培地上の小分生子は無色、楕円形～鎌形で 0-1 隔壁、大きさは 8.9-18.1×2.2-4.3 μm 、大分生子は無色、鎌形で 1-4(主に3)隔壁、大きさは 22.6-49.1×3.2-5.1 μm であった。さらに、*tef1* 領域を用いた遺伝子解析の結果、本菌は *F. oxysporum* 種複合体内の複数種と 99%以上の相同性があった。以上より、本病害を *F. oxysporum* Schlechtendal f. sp. *apii* W.C. Snyder & H.N. Hansen によるセルリー萎黄病と診断した。

(中央農試)



セルリーの萎黄病 (中央農試 中島 原図)